

孤立を恐れず、つながりを求めて

新型コロナウイルスに抗して 一会員からの声

新たな生活スタイルの構築へ向けて

2020年2月、北海道でコロナ感染者の拡がりが見られてから終息が未だに見えない状況です。街中でのマスク姿が見慣れた風景になり、ウイズコロナの生活も定着してきています。

東京オリンピック パラリンピックが延期になり、それに向けて準備をし、期待してた人々にとって、まさかこんな状況がこようとは誰が予想したでしょうか？経済的な損失も回り知れず、人々を苦しめています。

ワゲン療育病院長竹では、例年11月から3月までマスク着用などインフルエンザ感染防止の対策を行い、利用者家族へはメール等で数回経過報告がありますが、今年の報告は例年の数倍の第11報(8/25現在)になりました。また、施設では面会のメリットと感染のリスクの両立を目指し、時間や人数を制限した面会を可能にしていますが、「新しい面会方式」

毎年2月頃はインフルエンザ感染予防対策で面会中止になるのではないかと保護者の間で心配されている時期でした。今も見通しが付かない新型コロナウイルス感染では日常生活の変化を余儀無くされており、面会が出来るようになることを願っている者です。

お世話になっています施設職員の皆様がプライベートな部分でも感染拡大防止に気を付けながら、利用者の安全で快適な生活支援に頑張っていたことに感謝しています。

そうした状況の中、園便りやホームページほかで笑顔いっぱいの写真を沢山届けていただいていますので寂しさと心配を一瞬忘れ、たくましく元気に過ごせていることに安心しています。さらには、電話による声のつながりやズームでの面会ではリアル

(入所者家族) 前島 俊寛

も検討中です。時々、病院や高齢者施設でのクラスターが報じられると胸が痛みますが、幸いにしてワゲン療育病院長竹を始め重症心身障害児(者)の施設での発生報道はなく、関係者のみなさんの緊張が続く中でのご努力に感謝しかありません。

コロナ禍の中で新たな学びで身に付けてきたことがたくさんあります。一つは、感染症は「正しく恐れること」です。また、感染拡大を防ぐには「3密(密閉・密集・密接)」を避け、手洗いを励行し、人前ではマスクを着用することです。

しかし、他者への寛容の心よりも同調圧力による2次被害が起きているのは悲しいことです。人間は誰人も等しく尊厳無比な存在です。

正しい知識の欠如に起因する差別・偏見は人間の心の中にあるので、人間の心の改革が必要であると考えています。ピンチはチャンスです。コロナ禍を機に新たな生活スタイルを構築していきましょう。

(入所者家族) 北川 泉

な表情をお互いに交わすことで涙しながら面会できる日を待ち遠しく感じています。

園のエントランスには保護者のご尽力によりいつも素敵な作品を飾っていただけて私たちも面会時の楽しみにしています。この中には新型コロナウイルス感染予防呼びかけとして職員の皆様へのお礼をはじめ園の4大イベントの1つであります夏祭りをイメージしたコロナに負けない夏などが描かれた作品も展示されていますので応援メッセージとして届くものと思っています。

どこの病院や施設などでも面会は近くて遠く時間がかかるものとなっていますが、園からの情報や応援メッセージで繋げていくことで利用者はじめ職員そして保護者が元気でまた会えるようになることを待ち望んでいます。

孤立を恐れず、つながりを求めて

新型コロナウイルスに抗して 一会員からの声

(入所者家族) 中川 博明

横浜療育園では当初ガラス越しでしたが現在は15分のみですが面会できます。オンラインでの面会も出来ますが親としてはやはり直接子供の顔を見るのが一番だと思います。

未だに面会もできない施設もあると聞きます、親、兄弟には何もできません施設の職員の方々には感謝

しかありません。

今後はコロナとインフルエンザというダブルの心配をしなければなりません何とか早く終息してくれればと思います。

会員の方々も私を含め高齢になってきましたくれぐれもご自愛ください。

(入所者家族) 佐藤 泰彦

毎日メディアから、新型コロナウイルスの新規感染者数が報じられていますが、これを書いている時点では、依然としてその数は一進一退を続けていまして、終息には程遠いように思われます。

しかし、そのような中であって、神奈川県内の重心施設では感染者は発生していないと聞いています。このように入所者を守っていただいている施設の職員の皆様には、大変なご苦労があると思います。ただただ頭が下がる思いですし、感謝の気持ちでいっぱいです。また、感謝の気持ちを上手に表せない入所者達も、きっと、皆様に厚い信頼を寄せ、感謝の気持ちで一杯であろうと思いを馳せ、その入所達に成り代わって、その感謝の気持ちを伝えるのも私達の役割なのであると思っていますところす。

そして、コロナウイルスのワクチンや治療薬の実用化のめどもははっきり立っていませんし、第2波、第3波も心配され、今のような状況がここ数年は続きそうな様相であるのに加え、イン

フルエンザの感染防止対策も必要とされる季節に入ってきています。施設の職員の皆様にはさらなるご苦労が加わることになり、とても心苦しいのですが、これからもよろしくとこの場を借りてお願いさせていただきます。

ところで、我が子がお世話になっている施設も、2月末ころより、緊急で止むを得ない場合を除き、直接触れ合う面会ができなくなりました。ただ、職員さんのご配慮により、6月からは月一回、リモート面会方式で、声を掛けながら、元気な様子をうかがえる機会を作っていただいています、大変ありがたく思っています。画面越しではありますが、表情を実際に見ることができまして、やはりとても安堵することができました。

施設で感染者を出さないためには、どうしても直接触れ合うことは避けなくてはなりません。子どもも親もこのような面会に早く慣れて、これが日常と割り切り、少し遠い先になるでしょうが、以前の様な直接触れ合える面会ができるようになることを楽しみに日々過ごそうと考えています。

